

2026 春季生活闘争 連合全国アクション
2.28 中央集会・アクションデモ
芳野中央闘争委員長 主催者あいさつ

皆さん、おはようございます。土曜日の朝からご参集いただき、ありがとうございます。

2026 春季生活闘争は、“賃上げがあたりまえの社会”を実現する、正念場です。

既に、2月から多くの組合が要求書を提出し、先行組合は3月17～19日のヤマ場に向けて、交渉を展開しています。皆さんの連日のご奮闘に心から敬意を表します。

私たちは、これまで、「未来づくり春闘」を掲げ、「人への投資」の重要性を訴えてきました。私たちの訴えは、政府や経営者団体も含め、着実に社会に浸透してきました。その結果が、2年連続5%台の賃上げです。

ですが、私たちの暮らし向きはどうでしょうか。いまだにデフレマインドが染み付いたまま、節約モードから抜け出せてはいません。賃上げが物価高に追いついていないからです。

とりわけ、中小企業や労働組合のない職場で働く仲間は、物価高の影響がより大きく、厳しい生活が続いています。適正な価格転嫁・適正取引を促進し、物価を上回る賃上げを実現しましょう。

加えて、人材の確保・定着、さらには生産性向上に向けて、働き方の改善も不可欠です。労働時間規制の緩和ではなく、職場における長時間労働是正の取り組みを着実に進めることこそ、真の「働き方改革」の実現につながります。性別にかかわらず、誰もが自分らしく能力を発揮できる職場づくりという観点でも、長時間労働を前提とした働き方を見直していきましょう。

私たち労働組合が、組合員の総意で掲げる要求には、現場を支える、働く仲間の思いが込められています。この思いを経営側にぶつけ、頑張りが報われるよう、結果にこだわって、粘り強く交渉を積み重ねていきましょう。

構成組織の皆さんには、厳しい交渉に直面する単組の支援を、引き続きお願いいたします。

中央では、経団連や日商などの経済団体と、賃上げの必要性について、認識合わせをしました。今後も、中小企業団体などとの懇談会や政労使会議などを通じて、「人への投資」を訴えていきます。

全国の地方連合会でも、連日、連合アクションの取り組みや地方版政労使会議などを通じて、社会全体で賃上げの機運醸成に努めているところです。

“賃上げノルム”の定着に向け、労使がともに社会的責任を果たしていかなければなりません。また、政府に対しては、物価と為替を安定させる、適切なマクロの経済社会運営を求めています。

賃上げの流れを力強く社会全体に波及させるためには、仲間づくりも不可欠です。賃上げへの期待が高まる春季生活闘争こそ、仲間づくりのチャンスです。労使交渉の機会が保障されている労働組合の強みを積極的にアピールしていきましょう。

このあと、5つの共闘連絡会議の代表者と、組織委員会委員長より、それぞれ決意表明をいただきます。

また、集会後にはアクションデモを実施し、賃上げの必要性と労働組合の存在意義を力強く社会に訴えていきます。

“ノーモア・デフレマインド”。誰もが、これからも「賃金は上がっていく」と信じ、未来に希望がもてる社会を実現していきましょう。

他人任せにはできません。私たち一人ひとりが、「未来づくり春闘」の主演です。この責任を自覚し、労使双方が納得できるまで議論を尽くすことを、みんなで誓い合う集会にしたいと思います。

ともに頑張りましょう！ありがとうございました。

以 上